

学校運営計画(4月)

評価

学校運営方針		校訓「自立・勤勉・創造」のもと、地域を愛し、地域に愛され、地域に信頼される校風づくりに努める。志をもって意欲的に学び、自律心と思いやりの心をもち、地域に貢献できる責任感ある人材の育成を目指す。		
昨年度の成果と課題		本年度重点目標		
<p>授業規律の確立に重点を置き、全教員で授業中の巡回や継続的な生徒指導に取り組んだ結果、生徒の状況は落ち着きつつある。遅刻指導については年度途中の取組により、一定の成果をあげたが、中途退学者の増加傾向などの課題が残った。</p> <p>今後は授業規律の確立や「立ち止まり指導」による生徒指導を継続するとともに、「遠賀スタイル」の授業を更に充実させることにより、生徒の学ぶ意欲の向上と基礎学力の充実を図り、生徒の希望進路実現を目指す。また、「鍛えて、ほめて、生徒の可能性を伸ばす教育活動」を実践することによって、生徒の「自己有用感」を高め、中途退学の防止及び問題行動の未然防止に努める。</p>	基礎学力の充実	<ul style="list-style-type: none"> 「遠賀スタイル」の授業を通じた生徒の学ぶ意欲の向上と課題解決能力、自己肯定感の涵養 「検定学習帳」を活用した生徒の学び直し及び基礎学力を充実させる取組 1年次の国語、数学、英語で、習熟度少人数指導の導入 「授業サポーター」及び「朝のHR指導」の取組により、生徒が落ち着いて授業に取り組む環境を作り出す 		
	社会人として必要な規範意識、マナー、モラルの育成	<ul style="list-style-type: none"> 「立ち止まり指導」の徹底 5分前行動の徹底 元気な声での挨拶励行 整理、整頓、清掃指導 部活動の活性化 全教育活動での人権感覚の育成 生徒会の活性化と生徒が主役の学校行事の積極的推進 		
	生徒の勤労観及び職業観の育成、コミュニケーション能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生、保護者、外部講師などを活用した進路講話 キャリアカウンセリングの充実 インターンシップ、オープンスクールの充実 応募前職場見学の完全実施 面接指導の計画的推進 学科、コースの特色を生かした資格取得の推進 進路支援コーディネーターの活用 		
	特別支援教育、教育相談体制の充実による生徒支援	<ul style="list-style-type: none"> 全校一斉面談 連続欠席生徒への家庭訪問の完全実施 家庭訪問(1年生全員) 特別支援教育の積極的推進 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、訪問相談員の活用 		
	開かれた学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 出前授業の推進 ボランティア活動への積極的参加 地域の方々との積極的な交流 幼、小、中、大学生との交流 		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	今後の課題
教務	授業規律の確立、基本的な生活習慣を身に付けさせる。	授業規律を乱す生徒に対して、リアルタイムに指導し、落ち着いた雰囲気の中で授業ができるようにする。 欠席・遅刻者を出さないための指導を強化し、原級留置者数・中途退学者数合わせて20名以内を目指す。		
	確かな学力の定着を図り、授業改善に努める。	家庭学習の習慣がない生徒に対して具体的な方法論を示し、家庭学習の習慣化を目指す。 「遠賀スタイル」を推進し、課題の発見と解決に向けた主体的・対話的で深い学びを促す授業づくりを展開する。		
	学科・コースの特色化を推進し、生徒の学科・コースへの帰属意識を育てる。	カリキュラム上の問題点について教科や生徒のニーズを踏まえた上でその見直しや改善に努める。 集会や行事を通して生徒自身の所属する学科・コースへの帰属意識を育てる。		
生徒指導	マナー、モラルの育成など、基本的な生活習慣を身に付けさせる。	生徒の改善を目的とした集会等を実施し、規範意識の向上を図る。 立ち止まり指導の徹底と生徒の背景などを把握して、生徒理解を深めた指導を実践する。		
	生徒会活動の活性化に努める。	部活動生の活躍の場の増加や顧問の指導時間を確保して、部活動加入率30%を目指す。 各種委員会を月ごと実施し、目標を明確にして生徒会の活性化を目指す。		
	地域との連携を図る。	地域の方からの相談等に対し即時に対応し、指導方針の理解を得る。 地域の指導員や警察等との補導委員会に参加し、情報交換等での連携を図る。		
進路指導	基礎学力を身に付けさせる。	基礎力診断テストの学習到達ゾーン「D2」以上の生徒45%を目指す。 「高校生のための学びの基礎診断」実施に向けて情報を収集し、その対策について検討する。		
	職業観や労働観を養い、3年間を見通したキャリア教育を推進する。	1年「知る・学ぶ」2年「経験する」3年「挑戦する」をテーマに進路計画を立てる。 社会人と連携した「生きたキャリア教育」を推進する。		
	進路目標を達成させるための取組を行う。	コース別進路学習や夏季対策指導を実施し、就職試験や一般入試に向けた対策をとる。 応募前職場見学を推奨し、就職の際のミスマッチを防ぐ。		
第一学年	基本的な生活習慣の確立と、規範意識の育成に努める。	保護者との連携を密にし、安易な遅刻・欠席をさせないように指導する。 定期的な服装頭髪検査を実施するなど、ルール違反に対する対処を厳正に行う。		
	授業規律を順守する意識を高め、基礎学力の充実を図る。	教室の環境整備を徹底するとともに、学年団の巡回指導に取り組む。 校内検定、課題テストにしっかりと取り組み、資格の取得を奨励する。		
	保護者との連携及び生徒理解に努める。	1学期中にクラス全員の面談及び家庭訪問を行う。 生徒の状況や進路の情報を学年団・授業担当者・各分掌と随時共有する。		
第二学年	基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成に努め、基礎学力を充実させる。	欠席、遅刻に対して家庭との連絡を密に行い、遅刻者1日3名以内を目指す。 各種資格の上級合格を目指し、資格取得に取り組ませる。		
	生徒の自己理解を深め、希望進路目標を明確にさせ、進路実現に向かう姿勢を培う。	保護者との電話連絡や三者面談等を通して、家庭との連携を図る。 オープンキャンパスやインターンシップを実施し、高い進路意識を持たせる。		
	生徒会活動などに積極的に参加させ、自己有用感を育む。	学校行事を活用して、次年度のリーダーとなる意識を高めさせる。 学校行事や生徒会行事において生徒の自主的活動を重んじ多くの生徒を行事に参加させる。		
第三学年	授業規律を遵守させ、基礎学力の充実・伸長を図る。	職員間で共通認識を持ち、教室や机上の整理を徹底させるとともに、授業規律の順守を図る。 授業サポートを効果的に行い、教務課・生徒指導課と協力しながら生徒の指導及び支援を行う。		
	社会的資質の育成とともに効果的かつ計画的に進路指導を行い、希望進路実現100%を目指す。	基本的な生活習慣及び挨拶や礼、言葉遣いやマナー等の社会性の育成を重視しながら集会、HRを通して進路意識の向上を図る。 進路指導課及び学年団で連携し、個人面談、夏季対策指導、面接指導の充実を図り、進路実現を目指す。		
	手本となるリーダーの育成を図ることで、学校行事を充実させる。	行事には服装頭髪、言葉遣いなどの指導を徹底し、最上級生として手本となる態度で臨ませる。 生徒会を中心にリーダーシップを発揮させ、生徒が主役の学校行事を作り上げる。		

保 健	自己管理の意識向上と体調を崩した際の改善の資質、能力を身に付けさせる。	生徒保健委員会活動の活性化を図り、生徒の健康に関する問題意識を高める。				
	生徒の現状・実態の把握し、関係職員との情報共有に努める。	担任・保護者と協力し、受診時の挨拶やマナーを守る態度を育成する。				
	学習環境を整備し、公共物愛護の精神、厚生施設の利用マナーを育成する。	担任・保護者との連携を通し、生徒の実態把握に努め適切な支援体制を作る。				
農 場	実験実習の充実を図り、「遠賀スタイル」でのわかる授業の推進に努める。	SC、SSW、訪問相談員を効果的に活用し、関係職員と連携を図る。				
	学科生徒の進路実現に向けたキャリア教育の充実を図る。	外掃を含めた中・大掃除を月に1回実施し、校内美化に努める。				
	地域や各関係機関との連携を図り、学校活性化に努める。	美化委員会の活動を通して、ごみの分別やマナー等についての啓発を行う。				
	人権尊重の視点に立って、授業創造・授業改善の取組を推進する。	各担当農場において実験・実習を効果的に行い、体験学習を通して学習内容の充実を図る。				
人権教育	個々の生徒に対する実態把握と生徒支援を充実させ、修学の保障に努める。	農場部職員間の連携を密にし、農場の環境整備に努め農業教育の充実を図る。				
	校内の特別支援教育の取組を充実させる。職員研修により取組の質を向上させる。	学科の生徒の希望進路を把握し、学年との連携で適切な進路指導を行う。				
	受検者の増加。	教科指導において適切な職業観を育成し、3年間を通したキャリア教育を実践する。				
広 報	効果的な広報活動。	学校行事や生産物等の販売を通して地域との交流活動を実施する。				
	P T A活動と学校の活性化。	地域関係機関との連携や地域イベントへの参加などにより学科のPRを行う。				
	授業アンケート並びに授業公開月間の実施。	人権課題（「いじめ問題」を含む）についての学習を充実させ、職員・生徒の認識を深める。				
研 修	授業アンケート並びに授業公開月間の実施。	人権的な視点を大切に授業創造・授業改善の取組を推進する。				
	校内研修の精選及び校外研修の参加推進。	生徒が経済的理由で中途退学しないように事務室等と連携して経済的な支援に努める。				
	課題研究発表会の充実。	課題のある生徒・保護者に対する相談・支援体制を充実させ、中途退学の防止に努める。				
		特別支援教育に関わる職員研修を充実させ、学校全体で取り組む。				
		校内の関係委員会の定例化、「個別の支援計画」等の作成、関係機関との連携を進める。				
		中学校訪問を通して積極的な情報交換を行い、本校の教育活動をアピールする。				
		中学校の進路事業計画を把握し、多くの中学校で模擬授業や学校説明を行う。				
		広報誌や学校案内チラシなど、中学生にアピールできる広報物を作成する。				
		昨年度を上回るホームページの更新を行う。				
		P T A総会の参加数を増加させる。				
		体育大会や文化祭などの学校行事に対し、保護者の積極的な参加を促す。				
		授業アンケートを7、12月に実施し、生徒の状況把握に努める。				
		授業公開月間を通じて、授業改善に役立てる。				
		内容や時機に応じた研修計画を実施する。				
		校外研修の積極的な参加を促し、その内容を全職員に還元する。				
		教務課と連携し、課題研究担当者との連絡を密にする。				
		生徒主導の発表会になるよう努め、次年度へ継続したものとする。				